

学校所在地：小城市小城町176番地 生徒数：712人  
連絡先：電話0952-73-2295 ファクシミリ0952-71-1018

## 小城の先覚者 納富介次郎



### 日本国内4県に工業学校・工芸学校を創設

今年の新任式や入学式で小城藩士納富介次郎を紹介しました。この人物は、父が端唄「春雨」で有名な柴田花守で、姓が異なるのは養子に出ているからです。彼は、今日でいえば高校卒業の年齢の頃に、長州藩士の高杉晋作らと中国上海に渡り貿易調査を行って、日本の伝統工芸品を工業化・国際化し、国富の原資とする事を考え、また、オーストリア・チェコ・フランスやアメリカを見聞し、工芸教育の必要性も説き、後年に金沢・高岡・高松・有田に学校を創設しているのです。

幕末明治期に、日本ばかりでなく世界を視野に入れて考え、行動を起こした郷土の先覚者でした。

## 先輩による講演会 小城市長 江里口秀次さん(高校23回卒)

「縁」と題し、高校時代の話や、30代後半の青年会議所時代に物事に対する考え方が変わってきたこと、40代後半の町長選挙への出馬が人生のターニングポイントになったことなどを話していただきました。

最後に、小城藩の初代藩主鍋島元茂が剣術を学んだ柳生家の家訓の話を通して「縁」の大切さを教えていただきました。



## 小城高校の歴史を知る

小城市文化課による小城高校の敷地内工事立会の際に、江戸時代の染付の碗(左)や染付の皿(右)が出土しました。磁器の制作年代から小城藩邸で使用されていたものと推定されます。

平成28年9月10日～10月16日に、小城市立歴史資料館において開催された「おぎを掘るX」でも展示されました。



### 小城高校の特徴や誇れるもの



「文武一途を旗印に、オンリーワンを社に貢献のできる優れた人材へと育む」をスクールアイデンティティとし、未来を担う人材育成のため、新しい教育に燃えています。校地面積は6万m<sup>2</sup>と県内第2位の広さです。樹齢650年の「大楠」と樹齢300年の「むくの木」が生徒を見守っています。

### 「ふるさとの復興（地方創生）へ」 黄城会会長 岩松 要輔

佐賀県の現状についての話のあと、佐賀県の歴史や文化の特色について話されました。

- (1)大陸にもっとも接近した位置
  - ・大陸文化の伝来・焼き物技術の伝来・鎖国時代
- (2)龍造寺・鍋島氏の勢力台頭
  - ・戦国時代、島津氏・大友氏との九州三分支配
  - ・地元土豪より成長・保守的性格の地盤
- (3)幕末・維新期の鍋島藩の興隆

10代目鍋島直正の藩政改革（弘道館の充実）  
軍事・医薬分野等の洋式化  
戊辰戦争・文明開化に活動  
（佐賀の七賢人）



学校所在地：小城市小城町176  
連絡先：(0952-73-2295)  
生徒数：713名



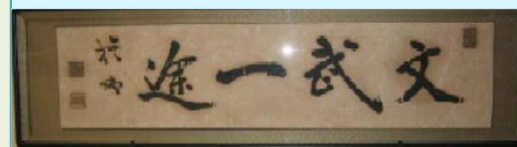
### 第38回中林梧竹翁顕彰書道展運営参加（書道部）

書道部では、毎年秋に開催されている小城の書聖中林梧竹翁を顕彰した書道展に毎年参加している。今回で38回目を数える同大会に出品はもとより、顕彰会主催で行われる大会運営のお手伝いを兼ねて、事前準備から作品展示、表彰式の補助などを部員全員で行っている。小城が誇る『梧竹さん』を讃え、郷土にその存在を浸透させてきた同大会を盛り上げる意味でも、地元の高校書道部として今後も積極的に参加していきたい。

### H27年度吹奏楽・合唱部ボランティア活動内容

- ・9/26(土)有料老人ホームぎおん  
訪問演奏(合唱)
- ・11/7(土)桜岡小学校芸術鑑賞会  
演奏(吹奏楽と合唱)
- ・12/25(日)ツクイ小城  
訪問演奏(合唱とハンドベルの演奏)
- ・12/26(土)蛍水荘  
訪問演奏(合唱とハンドベルの演奏)

### 学校の誇れるものの紹介



中林梧竹書

誠挑創校  
実戦意訓

平成11年4月制定の校訓  
前同窓会長宮副信一書